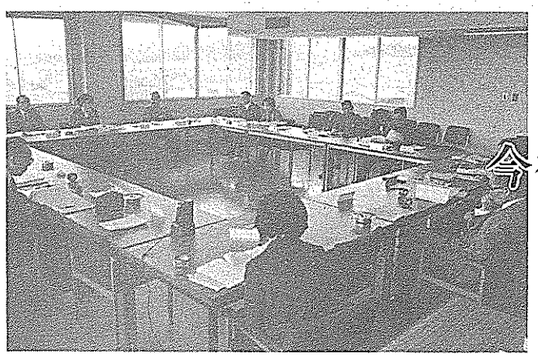
第1回市政モニター

今後の市政の糧に



市政モニター制度は、昨年四月、市民から二十名のモニターを委嘱し、モニターの目を通したいろいろの角度からみた市政のあり方など、アンケートや意見を寄せていただき、行政へ反映させるために行なってきました。

そこで寄せられた意見を整理し、一年間のまとめとして要約してみました。貴重な参考となるご意見をありがとうございました。

市民の声を市政に反映

第一回アンケート

市から協力を求められたら「話を聞いて協力する」80%、「その時の状況で判断する」15%、「無条件で協力する」5%。また、「市政の動きを何によって知りますか」は「広報なんこく」95%、「一般新聞」25%、「テレビ、ラジオ」10%、「市会議員」「家族や他人の話」「対話集会や説明会」が各5%となっています。

■市政への意見反映方法

「担当課に話す」35%、「対話集会など」25%、「町内会、部落会を通じて」15%、「市会議員を通じて」「市長らに陳情」「団体を通じて」「その他」が各10%、「投書」5%となっています。

■市民参加の是否

市政をすすめるにあたっては、「なるべく市民の声をくみあげて市政に反映すべきである」100%、「市政は市長や議員にまかせて市民は関係する必要がない」という人はありませんでした。「重要な問題を決定するときは市民全体の意見を聞くべきか」は「賛成」80%、「反対」15%、「その他」5%。「反対」という意見の中では「関係の審議会のようなもので決定するのがいい」というのが過半数の意見でした。

■広報なんこくについて

▽単なる行政側の一方通行にとどまず地域の問題提起へ、住民の声を登場させ、住民の心を行政に向かせるような広報紙を。

▽小学生が読むにしては内容がカタすぎる。母と子の対話形式にしてはどうか。

▽個人やグループの活動を紹介したらそれに参加できるのでは。

▽原稿の推敲と印刷の校正に気をつけて正しいものに。

老人年金は国が制度化を

第二回アンケート

第二回アンケートは「老人の福祉対策についてたずねました。

■老後の生活への関心

老後の生活に関心を示している人が多く84%にあたり、老人問題での問題は「子の扶養意識の低下」42%、「老人に対する社会全体の理解の稀薄さ」10%、「年金など社会保障の不足による経済的不安」10%、老人自身の老後の生き方、生きがいに乏しい」37%と指摘しており、老後の生活基盤に不安感を抱いているものと思われます。また、老後の経済的な責任は「子供が世話するのが当然」47%、「自分のことは自分自身で考えるべきだ」16%、「一概にいえない」32%となっています。

寄せられたアイディアは――

▽老人大学の開設▽老人作品展示即売会▽地区ごとの老人教室（親子共々出席して明るい学習）▽老人の主張（日ごろ感じるお年寄の生の声を）▽老人向きの軽い仕事の斡旋▽福祉電話の設置▽老人と若者や子供が一体となったレクレーションなどでした。

「ひとり暮しの老人対策として」は「老人ヘルパーの派遣」45%、「介護人の派遣」14%、「老人クラブ会員などによる友愛訪問」18%、「福祉電話」14%など、ひとり暮しの老人には身の回りの世話や話し相手になる人の派遣もしくは訪問が望ましいとしています。

また、「老人年金の増額や対象年齢の引き下げを行ったら」には、財政問題などから否定的な意見が多く寄せられ、市の制度としてよりも国の制度にすべきだという意見が根強く注目されます。

■老人クラブへの参加

「あなたの家族や近所のお年寄は老人クラブに」は「加入している」79%、「加入していない」21%。加入していない理由としては「加入すると老人くさくなる」33%、「加入しても事情があって活動に参加できない」33%などとなっています。

これからの市政はどうあるべきか

第三回アンケート

寄せられた意見の大部分は、空港拡張問題、財政問題、教育問題など。これらの意見は広報なんこく二月一日号で紹介しました。

何らかの形で文化活動に参加

第四回アンケート

第四回アンケートは「文化とうるおいを」についてたずねました。

■文化の意義

「毎日の生活に生きがいや張りあいを感じさせるもの」35%で、「人間は文化なしでは考えられず世の中全ての事象をいう」29%と、言葉の豊富さを示しています。

■文化財

南国市の文化水準については、「標準以下」35%という厳しい意見があり、「標準である」47%がかろうじて上回っている状態です。文化財保護については、「価値により保存」88%が圧倒的に多く、「開発が優先」は、わずか6%となっています。

関心のある文化財としては、国分寺、岡豊城趾、紀氏邸跡、土佐国衙跡、小蓮古墳、尾長鶏の順となっています。

■文化行事

文化的な活動を「している人」53%と「していない人」47%とが半々に分かれており、活動をしていない理由として、「時間がない」75%をあげております。平日の余暇時間は、「三時間まで」82%が多く、余暇の利用に「テレビ・新聞・読書など」家庭ですごすのが約80%をしめています。文化的な催物への参加では、「自分が出演・出品」「観客として参加」がいずれも70～80%をしめ、何らかの形での文化活動への参加がみられます。

■公民館活動

生涯にわたる勉強の必要性を考える人で、「生活の向上に役立てる」34%が多く、「知識を身につける」「社会に役立てる」「教養を高める」をあげています。参加したい公民館活動の行事として、「教養を高めるための講座」34%、「不用品などの交換会や展示会」30%の他に、「お花・お茶などの習いごと」「スポーツ教室」「囲碁などの娯楽」など、男女、年齢別により要望もちまちです。

地方財政危機を考える

モニター懇談会

当面する市政の重要課題である財政再建。地方財政危機を考えるというテーマで、行財政の実態や財政再建について全員で意見交換。

▽赤字解消のために財産処分をするということですが……。

▼今のところ民間へ売ることは考えておりません。いよいよの時は開発公社へ肩代りをさせる考えです。

▽開発公社が先行取得していて、市がどうしても始末をしなければならないものが十億円あると聞きましたが……。

▼全部が土地ではなく、事業もやっている。市道の舗装に三億円、庁舎の一部も一部未払になっているし、消防庁舎、保育所とか先買いをしておいてすでに使っているものもある。市が引き取らなければならないのが十億円、他に売ることができるものも含めて、全部で十八億円ぐらいになる。

▽実際の赤字となるものは……。

▼ヤミ借金が九億円、実際の借金は二十億円以上になる。

▽ラスパイレス指数をみても、南国市はそんなに高いと言えないと思うのですが、初任級はいくらですか。

▼国家公務員の給与を百とした場合、自治体職員の給与がいくらになるかを表わしたもので、本市では百四・三で高卒初任級が六万七千八百円となっている。

▽建全財政を確立する上では長期的な計画が必要で、商工業の発達に力を入れることも大事なことですが、市長さんはどういう方針を持っているのか聞かせて欲しい。

▼財政の立て直しが主案で、まだ長期計画というものは実際には作っていません。財政再建計画案ができたら年次計画を作る考えです。

▽南国市には図書館がない。福祉センター内に簡単な図書館を作って、本一冊寄付運動ででも働きかけたらどうか。

▼市民にご寄贈願って、センターへ置いている本も少しあります。

▽その他に、開発公社に土地を買わして赤字になっているが、市が不動産屋のマネをすることは好ましくない。

▼高度成長下の時であるので、今後は十分つつしまなければいけない問題です。

▽し尿処理はどうなっているのか。

▼今は黒滝へもっていって、山へ浸透させていますが、いつまでも地区の人に迷惑をかけるわけにはいかないので、新しい施設を考えていますが、ここ一～二年は黒滝でお世話になりたいと思います。

▽赤字解消のためには、「入るを量って、出づるを制す」というのは当然のことですが、福祉面で何もかも切ってしまうのではなく内容を十分検討してほしい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

市政モニターのみなさんからは二回の懇談会やアンケートを通じてたくさんの意見が寄せられました。紙面の関係で全部の意見を載せることができませんが、市民とともに考える場となれば幸いです。